

# KLIS TODAY

No.  
14

## 筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162  
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

### 図情図書館復旧に、ご協力ありがとうございました

気谷 陽子

このたびの東北地方太平洋沖地震により、被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。また犠牲になられた方々とご遺族の皆様にも、深くお悔やみを申し上げます。

私ども図書館情報学図書館（以下、図情図書館）では、3月11日につくば市を襲った震度6弱の地震によって25万冊の蔵書のうちの4割が書架から落下する被害がありました。しかし、被害が大きかったにもかかわらず早期に復旧できました。これはひとえに、知識情報・図書館学類生をはじめとする学生ボランティアの方々のご協力の賜です。

震災当日すでに、落下した膨大な図書や雑誌を目の当たりにした教員や学生の皆さんが、復旧の手伝いを申し出てくださいました。私ども図書館の側でも、早期の復旧には学生にご協力いただくことが不可欠と考え、図情図書館は3月28日から、中央図書館は4月1日から、学生ボランティアの受入を開始しました。図情図書館は人的被害や施設の被害はなく、春日エリアに新入生をお迎えする直前の4月8日には、落下した資料を書架に戻す作業すべてを終え、通常サーブスに戻ることができました。

図情図書館でのボランティア活動にご参加いただいた学生は延べ64人、このうち知識情報・図書館学類の方は延べ32人でした。ツイッターで「どこそこのコーナーがまだ片づいていないよ」などと情報交換しながら、4月8日に作業をきちんと終え、新入生を迎えられるように間に合わせてくれたボランティアの学生たちの若い力に、図情図書館職員一同深く感謝します。

（きたに・ようこ 図書館情報学図書館 主任専門職員）



図情図書館、震災当日の様子



## ボランティアとしての想い

鈴木 康平

3月11日の震災当日、私は茨城県笠間市の実家にいました。いつもより大きい揺れだと思っていたら、時間が経つごとに揺れが大きくなり、急いで家から飛び出しました。屋根瓦が波打ち、天井が落ちる様子は夢を見ているかのような感じでした。家の前ではブロック塀が倒れ道路をふさいでいました。震災当日は家族で近くの小学校に避難し、避難所で発電機や毛布、食糧の運搬を手伝いました。その後は春休み中だったこともあって、半月ほど家の片づけや町内の倒れた塀を近所の方々と撤去するなど地域での活動を行いましたが、つくばのアパートや大学が心配だったため、3月末につくばに戻りました。

私は以前から生活時間のほとんどを大学で過ごしていました。快適なネットワーク環境、充実した資料、冷暖房装置等、設備が整っているということもあり、大学が自分の居場所だと感じていたからです。調べ物等で利用していた図書館も被災していたので、自分の居場所をしっかりと人の入れる空間にするのに少しでも協力できればと、ボランティアに参加しました。また今年度から図情図書館の臨時職員として働かせていただくことになっていたので、自身の職場であるという責任感もありました。

ボランティア中、多くの資料が破損している様子を目にしました。そのなかには何十年も伝えられてきたものもあったと思います。図書館情報学を学ぶ者として、保存と利用という図書館の二つの機能を災害時にどのようにすれば守ることができるのか、考えていかなければならないと感じました。（すすき・こうへい 知識情報・図書館学類3年次）



図情図書館2階入り口から見た被災状況



書架復旧作業中の鈴木さん

## 「できることをする」という「つながり」

黒澤 春佳

3月11日、「なにかすごいことが起きている」と分かったのは大学からアパートに帰ってからでした。ネットもテレビも地震一色で携帯電話のメールと通話はつながらず、近所の店が次々に臨時休業し、余震が断続的に続いているのを見て、ようやく大災害が起こっていることに気がつきました。地震直前まで私は図情図書館1階にある春日ラーニング・commonsにいました。休憩のため春日エリアの共用棟のラウンジに移動したときに地震が発生しました。しかし地震直後は図情図書館に戻ってのんきに、「図書館の本が落ちただろうから被害状況を写真に撮ってみんなで本を元に戻さない」と単純に思っていました。そのときの自分の比較的気楽な思いと、アパートに帰ってからネットやテレビ等で知った現実との落差に愕然としました。

私はツイッターもSNSもやらないので友人や家族の安否確認ができず、春休み中なので筑波大生もほとんど帰省しており、電車も止まったので移動の手段もなく不安でした。

それでも被災者の方に何かしたいと思ったのですが、どこにも行けずこちらから何も送れず、ひたすら無力でした。ネットのなかではみんなツイッターで連絡を取りあい、救援情報を交換し励ましあいつながっているのに、自分一人ポツンとアパートにいたことが、ただただ寂しく悲しく苛立たしく、今まで当たり前のようにあった「社会」の大切さに改めて気づかされ、そのパーツとして動けないことが悔しく感じられました。

ゼミの先生から図書館ボランティアの話が来たのは3月下旬でした。私にもできることがあるならやらねばなるまい、4月になれば、つくば以上に被災した地域からもまったく無傷だった地域からも新生が来るだろう、皆さんが少しでも不安に思うことなく入学していただければと、さっそく初日から参加しました。

被災地域の日も早い復興を祈りつつ、今年の夏は節電に努めたいと思います。

(くろさわ・はるか 知識情報・図書館学類4年次)



復旧作業中の黒澤さん

## 2010年度BEST FACULTY MEMBERに薬袋教授、綿抜教授

2010年度BEST FACULTY MEMBER（SS教員）として、知識情報・図書館学類から薬袋秀樹教授と綿抜豊昭教授の両氏が選出されました。このBEST FACULTY MEMBERは、筑波大学の教員業績評価において非常に高い評価が与えられた教員が選ばれるもので、2011年3月1日、大学会館において山田信博学長から表彰楯が手渡されました。

薬袋教授は社会貢献活動、綿抜教授は研究活動が、それぞれ評価されました。

お二人に、今回の表彰理由となったご自身の活動について、概要を書きいただきました。

### 図書館改革の構想とその実現に向けて

薬袋 秀樹

このたびは、社会貢献分野においてBEST FACULTY MEMBERとして表彰していただき、大変ありがたく思っております。文部科学省の「これからの図書館の在り方検討協力者会議」の主査として『これからの図書館像』をはじめとする諸報告の作成に携わったことと、文部科学省・筑波大学等が共催する「新任図書館長研修」の企画立案をしたこと、各地の公共図書館の職員研修の講師を務めたことなどを通じて、日本の公共図書館の活性化に貢献した点を評価していただきました。

これらの活動は、「課題解決支援」をめざす「図書館改革」の構想とその実現をめざす取り組みが基盤となっています。読書支援が中心であった従来の公共図書館では、社会の情報ニーズとの関連が不明確でしたが、これからの公共図書館は、読書支援とともに、地域の「課題解決支援」をめざし、生活と仕事をサポートしていくべきだと考えられています。この間、「図書館改革」に取り組んでこられた皆様に敬意を表するとともに、心からお礼を申し上げます。

大学が社会貢献を行うには、図書館利用者や国・地方公共団体とのあいだ、また全国の公共図書館職員の皆さんとのあいだに、信頼関係が必要です。この信頼関係は、私も室長を務めさせていただいた旧図書館情報大学の生涯学習推進室以来、多くの関係者の努力によって築きあげられてきました。その意味で、今回の表彰は、旧図書館情報大学以来の図書館情報メディア研究科、知識情報・図書館学類の社会貢献事業に対する評価として受けとめたいと思います。

日本の公共図書館関係者の一部には、永年にわたって、国・地方公共団体の行政に対する無理解や反発がありました。ようやく、日本の公共図書館の客観的な研究をもとに、研究者による政策提言が行われ、それが多くの人びとに支持されるようになってきました。この点で、本研究科、本学類は大きな貢献をしてきました。今後もそのための努力を続けていただくことを願ってやみません。

（みない・ひでき 知識情報・図書館学類 教授）

## 研究三題噺

綿抜 豊昭

ひとつの研究テーマを深く掘り下げず、はば広くしておりますと、「いきあたりばったり研究」という印象をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、この場をお借りして、そういう研究方法をとっていても、最後にまとまる（かもしれない）ということをお話させていただきたく存じます。

その昔、『古今和歌集』の解釈を通じてなされる思想教育（古今伝授）を追っていました。それは大事なことを「三」で説明します。『淮南子』にも「物は三を以て成る」とありますし、すぐ影響される私は「三」を思考の基としました。たとえば地域文化を考えるにあたって、①和歌・連歌・俳諧宗匠②料理人③礼法家という三つを、同じ視点で調査すると、これまでに見えなかった地域文化が見えてきます。『老子』に「道は一を生じ、一は二を、二は三を、三は万物を生ず」とあるのは、私にとっては格言です。

現在、幕末から近代初期の俳人を追っています。これが、まだ秘密にしておきたい②③と結びつくと、今でいえば公共図書館に相当するものの存在が浮かびあがります。さらにこの研究成果が他の二つの研究成果と結びつくと、先行研究とは違った視点で、図書館史的に近世と近代が連続していたことが明らかになる予定です。どう三題噺となるかは「乞うご期待」。

組織に属する人は、様々な場面で多くの人に助けられているのですから、その時々に関与に与えられた「役割」をこなして生きるべきと考えています。この研究をまとめて、図書館文化史の研究に関与できたら嬉しいと思う次第です。（わたぬき・とよあき 知識情報・図書館学類 教授）



表彰式にて、左から葉袋教授、綿抜教授

# 学類生による学類パンフレットの作成

1年生のクラス担任による「情報リテラシー実習」（2010年度実施）では、知識情報・図書館学類のパンフレットを作るという課題で、4ページ仕立てのパンフレットを作り、展示会と表彰式を行いました。学生並びにクラス担任による投票の結果、7作品が受賞しました。

今回これらのうち最優秀賞、優秀賞、秀賞の3作品とクラス担任賞の2作品を紹介します。いずれも本学類の学生の特色をつかんだ、コンセプトのしっかりした作品に仕上がっており、学類のパンフレットを作る際にぜひ参考にさせてほしいと思うものばかりでした。

## 北原美穂さんの作品（最優秀賞）

このパンフレットを作る上で一番重視したのは、とにかくぱっと手に取ってもらえるものにするということでした。そこでどうしたら知識情報・図書館学類をめざす人たちの目につくものになるのかと考えた結果、アニメ風のキャラクターを用いることにしました。

中身はキャラクターを活かしつつ内容をわかりやすく伝えられるように、漫画仕立てにしてみました。漫画なのであまり内容を詰め込められなかったのですが、そのなかでもこの学類で学ぶ上での「注意喚起」のようなものはしっかり入れました。

（きたはら・みほ 知識情報・図書館学類2年次）



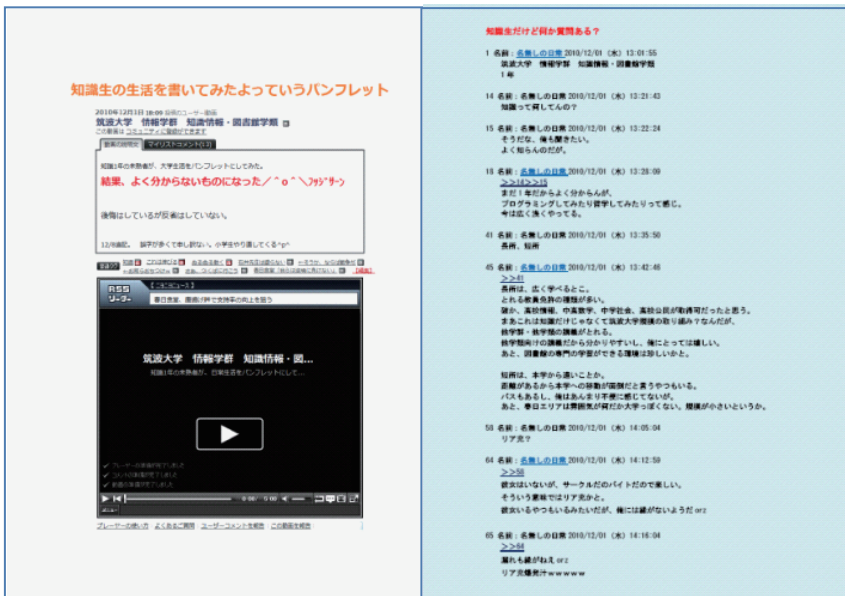
知識情報・図書館学類では文理融合型の教育を受けられます。1～2年次で情報を扱う上での基礎を学んだ後、3年時から3つの主専攻に分かれて専門を学べ、文理にまたがる幅広い専門性を身につけます。

また資格取得をめざす人のために、教職及び 司書教諭、司書の科目も並行して開講されています。

## 早倉 舞さんの作品（優秀賞）

私はこのパンフレットを、大学公式パンフレットの補足という位置づけで作りました。具体的には、一人暮らしや寮生活、知識情報・図書館学類やラーニング・commonsに関する「知識生」の等身大の目線での意見を載せました。これらの情報は志望大学を決定する上で大切であるにもかかわらず、インターネットを用いてもなかなか見つからず困った覚えがあります。

またパンフレットにおいて重要なのは、まず目を向けてもらうことです。そのためこの学類をめざす高校生の興味を惹く、RSSリーダーや掲示板をデザインに取り入れ、中身も読みやすい文章を心がけました。

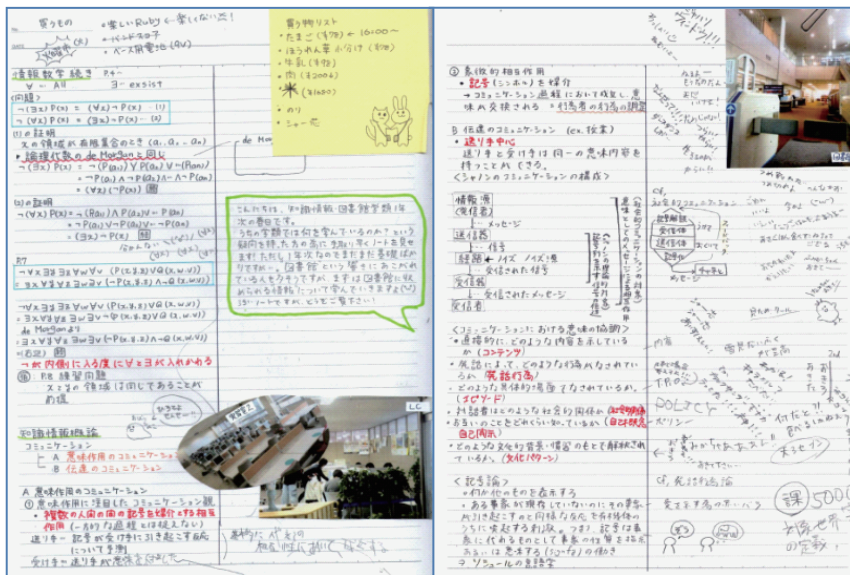


(はやくら・まい 知識情報・図書館学類2年次)

## 大平奈美さんの作品（秀賞）

最近の大学のパンフレットを見てみると、学部や学科の説明などが多く載っています。確かに紹介は大事ですが、では実際どんな授業をしているのか？と見ると、〇〇演習や△△論など科目名が紹介されていることが多いと思います。しかし、名前だけでは、あるいは概要説明だけでは、実際の授業のイメージは想像しづらいのではないかと考え、私は自分の取ったノートをそのまま載せてみました。

また、筑波大生の暮らしがわかるよう、自分が使っている買い物メモを貼ったりして、高校生に私たち大学生が身近に感じられるように工夫しました。



(おおひら・なみ 知識情報・図書館学類2年次)

## 高畑志栞さんの作品（クラス担任賞）

知識情報・図書館学類の学生が、最初の一年間どのような学生生活を送るのかについて、季節に分けて説明しました。特に新潟出身の私は、関東なのに寒かったり暑かったりするつくばの気候の不思議さに驚いたので、その点を強調しています。高校生に読んでもらえるように、明るい色合いにして、高校時代好きだった『かすがらいふ』（大学説明会での在学生による配布冊子）のような学生目線の文章で書くように心がけました。（たかはた・しおり 知識情報・図書館学類2年次）

**春**  
4-5月

春とは、桜が咲く季節、卒業の季節、新生活の季節です。冬の間は寒いので、春になると暖かいと感じます。冬の間は寒いので、春になると暖かいと感じます。冬の間は寒いので、春になると暖かいと感じます。

4月は入学式、進路・就職説明会、入学式があります。その中でも入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。



**秋**  
9-11月

9月10月は秋の始まり、入学式、就職説明会、入学式があります。その中でも入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。



**夏**  
6-8月

7月は夏の始まり、入学式、就職説明会、入学式があります。その中でも入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。

8月は入学式、進路・就職説明会、入学式があります。その中でも入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。

**冬**  
12月とか

12月は冬の始まり、入学式、就職説明会、入学式があります。その中でも入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。

1月は入学式、進路・就職説明会、入学式があります。その中でも入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。入学式は、一生に一度のイベントです。




## 山本祥子さんの作品（クラス担任賞）

文系の高校生をターゲットに、本学類開設の授業のなかから数学関連の授業をピックアップして紹介しました。Web上で公開されているシラバスとは違う視点から、少しでも苦手意識をもたずに見てもらえるように、文芸雑誌の表紙や本の紹介文に似せてまとめました。また情報量よりも読みやすさを優先し、親しみやすい文面を心がけました。高校生に苦手分野の科目にも興味をもってもらい、文理融合カリキュラムの魅力伝えることを意図しています。（やまもと・しょうこ 知識情報・図書館学類2年次）

文系のための  
**知識情報・図書館学**

もう、数学から逃げない。

本が好きな  
でもそれだけじゃやっつけられない。  
情報学を学ぶために、数学の知識はマスト。  
ここでは、本年開講の数学の講義を紹介しよう。

**必修科目**

めくるめく記号論理の世界。  
「情報数学」  
「高階はラマンの必要条件ではない。」  
（第一回レクチャーより）  
キーワードは記号論理、集合と帰納、ベクトルと行列、やや数学のなかでは文系好みの性格が強い。 **科目 1**  
**高校数学との関連⇒論理と集合、行列**

だますか、だまされるか。  
「統計」  
「統計で嘘をつく方法」  
（指定参考書『統計で嘘をつく方法』より）  
日常的に目にすることも多い統計の知識が、なぜか授業で習得するのは難しい。少くも統計でだまされないようにしたい。 **科目 2**  
**高校数学との関連⇒統計とコンピュータ**



パンフレットを説明する山本さん（表彰式にて）

学生と一緒に担当授業についての説明を聞く鎮目教授